

令和6年度 小金井市立緑小学校 授業改善推進プラン

1 授業改善の方針

○「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業を行うために、「聞く力」を育て、友達と交流する中で、自分の考えをさらに深め、児童が主体的に学ぶことができるように指導の改善を図る。

2 児童の現状分析

(1) 全国学力・学習状況調査

国語	○思考力や表現力があり、「書くこと」がよくできている。学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う力を育む。そのために、日常の学習の中で、文の中で適切に漢字を使っていけるように指導していく。
算数	○データの活用の領域の正答率が高い。2つの量の関係や図形の底辺と面積の関係など知りたい数量の大きさの求め方を言葉や数、式などを記述で表す力を育む。そのために、話し合い活動の中で意見を交流させ、自分の考えを深めさせるようにする。

(2) 教職員アンケートより

○児童が「考えたい」「伝えたい」と思える場の設定が大切である。「対話」を通して、主体的に児童が「考えたい」「伝えたい」という気持ちをもてるように、まずは児童同士で聴き合い、自分の考えを深める中でさらによりよい話し合いができるようにしていく。

3 各教科等における授業改善の視点

国語	低学年	○話型や文型を提示し、自分の考えを書いたり発表したりできるようにする。 ○うなずいたり、ハンドサインを示したりするなどして、話を最後まで聞くことを意識させる。
	中学年	○事前に自分の考えを明確にしてから話し合いをすることで、自信をもって自分の意見が発言できるようにする。 ○掲示物を活用して聞く視点を明確にし、話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさずに集中して聞き、質問や感想を話す活動を取り入れる。
	高学年	○話し合い活動では、自分の考えを深めるために、目的や視点を明確にさせる。 ○スピーチや授業中の友達の発言などの際に、話の目的や伝えたいことを考えながら聞くことができるようにする。また、自分の考えと比較して共感したことなどを発表し、聞く力を高めさせる。
社会	中学年	○単元の終わりには新聞やポスター、ICT 機器などにまとめる活動に取り組みさせる。また、資料を読み取る力を高めるために、繰り返し練習の場を設けるなど丁寧に指導する。
	高学年	○資料から児童が見出した問題を基に、学習計画を構成できるようにする。その際、時事を絡めた単元計画を意識させる。また、学習内容を友達と共有することで多様な学習過程を踏めるようにし、児童がまとめ方を選択できるようにする。
算数	低学年	○いろいろな考えを交流する活動を通して、様々な表現の仕方（絵や図、式、ブロック、数の分解等）があることを知り、それぞれの方法の良さに気付かせる。
	中学年	○既習事項を活用して、絵や図、式、数の分解などで自分の考えを表現し、友達と考えを交流することで、より良い解決方法があることに気付かせる。
	高学年	○既習事項を活用して自分に合った方法（図、式、数直線等）で問題解決を図り、学び合いを通して、自他の考えの相違点や良さに気付かせ、数学的な見方・考え方を広げたり、深めたり、活用したりできるようにする。
生活	低学年	○興味に応じた活動を選択させたり、気付いたことを交流できるような場を設定したりして、新たな気付きやよりよい工夫などを生み出せるようにする。

理 科	中学年	○事象と生活体験や既習内容を関連付けて予想・仮説を考え、友達と交流することで、新たな発想で事象を考えられるようにする。 ○予想と結果を比べて自分の考えをまとめる練習を重ね、適切な情報を使って児童自身で結論を導き出せるようにしていく。
	高学年	○事象に対する経験や予想をもとに学習課題を設定し、どのような実験結果になるかを推測しながら実験方法を考えることができるようにする。 ○事象に対する疑問・学習課題に対する結論を、予想と実験結果から主体的に導き出せるように指導していく。
音 楽	低学年	○多くの曲の歌唱や演奏を通して、音楽の良さや面白さ、美しさを感じ取らせ、友達と一緒に活動する楽しさを味わえるようにする。
	中学年	○音楽に関する語彙を増やし、音楽によって喚起されたイメージや感情、思いや感じたことなどを伝え合い、興味関心を広げるようにさせる。
	高学年	○自分の表したい音楽表現をするために、音楽を形づくっている要素を基に話し合ったり、表現したりできる場を設定して、深められるようにする。
図画工作	低学年	○互いの作品を鑑賞する時間を取り、工夫した点などを話し合っって自分の発想を広げる手がかりにさせる。
	中学年	○新たな視点を提示することで、アイデアを広げて豊かな表現活動につながるようにする。
	高学年	○表現する前にアイデアスケッチや参考資料を見せることで、イメージを広げる材料にする。混色をすることで色の多様性や感じの違いを実感させるなど焦点化したポイントを提示することで表現を深められるようにする。
家 庭	高学年	○より実践的な学習になるよう、目的に合わせて家庭で事前に調べたり、学習したことを家庭で実践できたりするようなワークシートを用いて指導していく。
体 育	低学年	○運動遊びにすすんで取り組み、だれとでも仲良く運動をすることができるようにする。勝敗を受け入れることが大切であることを話し、安全に配慮した場の設定を工夫する。
	中学年	○自分の能力に適した課題をもって運動に取り組めるように、学習カードや場の設定の工夫をする。また児童に友達の動きを見るとき視点について指導することで、主体的に学び合いができるようにする。
	高学年	○各種の運動の特性に応じた技能を身に付けたり、体力を高めたりできるよう、スモールステップでの学習過程を取り入れ、学習の高まりを感じさせる。
外国語	中学年	○チャンツやデジタル教材等を活用し、遊び、楽しみながらインプットを多くすることで、基本的な語句や表現を用いて話すことができるようにする。
	高学年	○既習した表現や語句を用いて、コミュニケーションを行う必然性がある場面や状況を授業に取り入れる。また、自然な会話に近づけるように取りませる。
道 徳	低学年	○友達の意見を聞いて、話し合わせる中で、いろいろな考えがあること気付かせることで他者理解につなげる。
	中学年	○導入の場面で、児童アンケートの結果等を共有することで内容項目に対して一人一人が自分なりの課題をもち、主体的に考えられるように工夫をする。
	高学年	○一人一人が考えをもって主体的に話し合いができるように、児童が「考えたい」「話し合いたい」と思えるような導入や展開の発問を工夫する。
総 合	中学年	○教科横断的な課題の設定、情報の収集や体験活動を多く取り入れることで、問題解決や探究活動に主体的に取り組んでいけるようにする。
	高学年	○地域人材の活用や、教科横断的なテーマ設定を図ることで、学習のための学習ではなく、自分たちのこれからの考え方や生き方を見直すための機会となるような生きた学習となるようにしていく。